



授業 撮影表現 (1年生 / 写真)

カメラの基本的な使い方を学び、ストリート写真や建物・風景写真について学ぶ。「課題説明と課題のジャンルに沿った写真家の説明→撮影(授業外)→講評会」の流れだ。講評会では特に構図について良いアドバイスをしてくれるので、他の生徒へのアドバイスも自分のためになる。最後の授業では明暗差が激しく、建物の構造が複雑な1933老場坊に行き、撮影した。左の写真はクラスメイトと、映り込んでしまった先生である。



食べ物 学食編

華師大(中北区)には3つの食堂がある。1階は中国料理の学食、2階はさまざまな地方の中国料理や韓国料理など、外部のお店が経営している。1食8~20元くらいの値段だ。そして、1階では肉まんやパン、ちまきなどの軽い食事が格安で売っている。肉まんはなんと0.7元だ。中国料理の種類は豊富で、麺類だけでも拉麺、拌面、刀削面、炒面などなど。だが、調味料のバリエーションは少ないので味に飽きてくる。そんな時は洋食をデリバリーしている。



交通・デリバリー・支払い、全てスマホで

中国では滅多に現金を使わず、全てスマホ決済。また、WeChatのアカウント情報やパスポート情報を利用し、日常生活のあらゆることをする。新幹線に乗る際もパスポートが必要であった。そして、電話番号をアプリに登録後、不審人物からやたらと電話がかかってくる。中国人が「それは普通のことだ」と言っていたので深刻に考えなくても良さそうだが、出べき電話と出たはいけない電話の違いがわからない。面倒なので情報を悪用しないで欲しい。



写真に夢中の中国人

一眼レフの所有率が高く、写真へのこだわりがすごい。また、見知らぬ人に勝手に撮影されても気にしない、勝手にSNSに載せられても構わないと考えているようだ。そのため、ストリート写真の撮影には最高の環境だ。また、写真を撮影し合うのも老若男女問わず大好きだ。満開の桜が咲く公園に行った際は、どこもかしこも撮影所と化していた。コスプレ文化も人気で、スーツケースにメイク道具を詰め、脚立やレフ板などを使用し、趣味の領域を超えてプロのようであった。



上海市内をお出かけ

上海は東京のように電車での移動が便利である。値段は4~8元と距離ごとに決まる。また、午後の授業がある学生は少ないので、予定が合いやすい。今月は近くのショッピングモールに出かけたり、南京东路などの観光地へ行った。また、上海には店が立ち並んだ小道が多く、地元の子供が店で勉強していたり、洗濯物が道端に干してあったりと中国の生活が見えて面白い。

第一个吃螃蟹的人

華東師範大学 3月報告書 デザイン3年 杉山歩乃佳



この一ヶ月、アメリカのように最高に楽しい!ということがばかりではなかった。一番の問題は言語である。中国語ができないため、授業はわからない。いい翻訳アプリを見つけたが、自分の力で学んでいるわけではないので留学目的を見失いかけている。聞いていた話と違うことからはじまったこの留学。先月はまだワクワクが勝っていたが、今月は不満に変わりつつあった。そんな不満を友達にこぼしたら「第一个吃螃蟹的人」と言われた。昔々、蟹は凶暴そうに見えた目から毒があるのではないかと恐れられていた。そんな蟹を最初に食べた人は勇敢だと讃えた言葉だ。転じて、何かをする勇氣を持った最初の人を形容する。華東師範大学の交換留学生生第一号の私が、謎多き中国での留学生生活をどれだけ楽しめるか果敢に挑戦してみようではないか。

| | | | | | |
|--------|--------------------|------------|------|------|-------------------------------|
| 私の履修計画 | 2/27 | パフォーマンスアート | 5/22 | 詩と写真 | 月・水・金 (8:00-12:00) |
| | 3/20 | 画像芸術 | 6/23 | | 火 (8:00-16:25)・木 (8:00-12:00) |
| | 4/10 | 写真表現 | | | 金 (13:00-18:45) |
| | | ドキュメンタリー写真 | | | 月-木 (19:30-21:30) |
| | 商業写真(大学院生・学部生共同ゼミ) | | | | |
| | 中国語(オンライン) | | | | |

授業カリキュラム
華東師範大学の時間割は午前午後、夜の区切りで構成されている。ほとんどの授業は学部関係なく午前中にある。月水金は一年生、火木は一三年生の授業で、授業カリキュラムは三週間か六週間で終了する。また、一授業4時間以上のため、集中力が切れてしまう。先生の集中力もきれてしまい、早めに授業が終わることも多い。金曜日の午後は大学二年生以上の学生が興味のある分野を選び、グループ課題に取り組む。授業内容については「英語」で確認できる。
中国語プログラム

張るしかない。
有り余る暇な時間
アメリカみたいに毎日楽しいわけではなかったもう一つの要因は暇すぎるからである。午前で授業が終わる、夜の授業まで暇だ。アメリカのようにイベントやアクティビティが毎日あるわけではない。アルバイトは禁止だし、オンラインパスの仕事すらない。毎日出かけるのはお金がかかるし、疲れる。また、華師大のキャンパスは広く、いろんな建物がある割に友達と談笑しながら勉強する場所はない。家か図書館で、一人で勉強する人が多いそう。アメリカでの私は学生の集まる場所に行き、英語を身につけようとした。そのため、家で勉強しても生の中国語には触れられないし、つまりは一人でご飯を食べている人に声をかけて会話を楽しんだが、ここではスマホを見るために一人で食べている人が多い。また、中国の学生は友達と待ち合わせてまで、みんなと食べたいと思っていないさそう。とにかく、このままでは時間を無駄にしてしまう。浅い関係でも良いから友達を増やし、誰かという時間を作らないといけないだろう。四月の目標である。